ふるさと
岩 手
応援寄付

～令和元年度事業実施状況のお知らせ～

御挨拶

令和元年度寄附者の皆様

この度は、本県へ温かい御寄附を賜り誠にありがとうございました。

お陰様で、令和元年度は1,413件、73,809,860円もの御支援をいただきました。皆様の「岩手県を応援したい!」という気持ちに恥じぬよう、お選びいただいた事業にて大切に使わせていただきました。

さて、本書では寄附金を活用して実施した事業について、寄附者の皆様に分かりやすくお伝えするため、実施状況をまとめましたので、御一読いただければ幸いです。

岩手県では、 東日本大震災津波や平成28年台風第10号大雨災害からの復興をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策など、皆様の応援に応えられる県政を推進して参ります。

今後とも、御支援のほどよろしくお願いいたします。

令和2年12月

岩手県

岩手との「つながり」を感じていただくために

岩手県では、御寄附いただく皆さまに、寄附金の使途を具体的にイメージしていただけるよう、令和元年10月に寄附項目をリニューアルいたしました。

今回の活用状況は、寄附項目リニューアル後初めてのお知らせとなります。

御寄附いただいた皆さまに、岩手との「つながり」を感じていただくため、活用状況のお知らせも、より具体的にお伝えできるよう試みました。

ご意見、ご感想などいただけましたら幸いです。

また、ふるさと岩手応援寄付のほか、県では、岩手に関係する方が様々な形でつながるfacebookページ「いわてのわ」による情報発信や、地域での複業をマッチングする「遠恋複業課」など、様々な取り組みを進めています。

ご興味がありましたら、ぜひ以下のQRコードからご覧いただけると幸いです。

「遠恋複業課」 「いわてのわ」

目　次

1.「いわての学び希望基金」に活用

令和元年度受入実績　610件　25,388,491円

東日本大震災津波により被災した子どもたちが、自らの希望に沿った学校を卒業し、社会人として独り立ちするまで、息の長い支援を行うことを目的としており、いただいた御寄附は次のような修学の支援、教育の充実を図るための事業に活用しました。

〇奨学金給付事業
震災により親を失った児童・生徒等に対して奨学金を給付し、「暮らし」と「学び」の支援を行いました。

〇教科書購入費等給付事業
被災した高校生に対し、入学一時金や教科書購入費、修学旅行費、高校等入学一時金などを支援しました。

〇被災地生徒運動部活動支援事業
運動部活動において、被災した中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会に参加するために必要な交通費等を支援しました。

〇被災地児童生徒文化活動支援事業
文化活動において、被災した小・中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会やセミナーに参加するために必要な交通費等を支援しました。

〇被災地通学支援事業費補助
被災した生徒等に対する通学の支援を図るため、通学定期券購入費の助成を行いました。

授業風景

文化祭の様子

東日本大震災津波伝承館での学習風景

担当：復興局復興推進課管理担当　電話：019-629-6922

2.「東日本大震災津波伝承館の運営」に活用

令和元年度受入実績　29件　2,058,807円

東日本大震災津波伝承館では「命を守り、海と大地と共に生きる」を展示テーマに、三陸の津波災害の歴史や、東日本大震災津波に関わる様々な展示により、東日本大震災津波の悲しみを二度とくり返さないために、震災の事実と教訓を世界及び次世代に伝承します。いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

〇企画展示の開催
発災から復興に至るまでの状況や、防災・減災に関する情報など常設展示の内容を補う企画展示を開催し、来館者に「学びの場」を提供します。

企画展示の様子

〇震災伝承に関するイベントの開催
語り部・ガイドを招いての講話、震災伝承に関する講座、ワークショップ等のイベントを開催し、東日本大震災津波の記憶の風化を防ぎます。

語り部による講話の様子

担当：東日本大震災津波伝承館　電話：0192-47-4455

3.「いわて子どもの森遊具充実」に活用

令和元年度受入実績　４件　140,000円

いわて子どもの森は、自然の中でのびのびと自由に遊びやふれあい体験ができる全県的な子どもの健全育成の拠点として、平成15年５月５日に開館した大型児童館で、令和元年度は延べ201,100人の方が利用されています。いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○遊具等の修繕
　老朽化した設備の修繕を行い、安心して利用できる環境を整備することができました。

おしごとトレイン

○図書の購入
　新たな図書を購入し、絵本の部屋の充実を図ることができました。

絵本の部屋ヨムヨム

担当：保健福祉部子ども子育て支援室子ども家庭担当　電話：019-629-5457

4.「子どもの居場所づくり応援」に活用

令和元年度受入実績　18件　814,000円

子どもが一人でも安心して過ごすことができ、食事や交流、活動を通じて様々なことを学ぶことができる子ども食堂などの「子どもの居場所」の立ち上げを支援しており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○子どもの居場所づくり推進事業費補助
　子ども食堂などの「子どもの居場所」の新規開設や機能強化を行う団体等に対し、設備改修や調理器具の購入などの経費を、市町村と連携して支援しました。
・新規開設
　令和元年度実績：3市町村（4団体等）
・機能強化（食事の提供に加え、新たに学習支援等を行う場合など）
　令和元年度実績：1市町村（1団体等）
　※　団体等への補助上限額　新規開設 50万円、機能強化 30万円

○食事の提供
　食を通じた見守りや交流を行っています。

○学習支援等
　食事の提供に加えて、学習支援や体験活動等を行っています。

担当：保健福祉部子ども子育て支援室次世代育成担当　電話：019-629-5461

5.「動物愛護・適正飼養の普及啓発」に活用

令和元年度受入実績　52件　895,000円

動物愛護シンポジウムや動物愛護関連行事を開催し、動物愛護思想の普及啓発に取り組むとともに、動物愛護団体等と連携した譲渡会の開催など、積極的な譲渡の取組や負傷した動物の治療に活用しました。

○動物愛護シンポジウム
　動物愛護思想や適正飼養の関心と理解を深め、より多くの県民に対する普及啓発を行うためシンポジウムを開催しました。動物を通じて命の大切さや共につながり支えあう心の学びにつながっています。

シンポジウムの様子

○動物愛護団体等と連携した譲渡会
　保健所に引き取られたり、飼い主に返還されなかった動物の譲渡会を動物愛護団体等と連携し定期的に開催しています。新しい飼い主の方への譲渡により、殺処分の減少につながっています。

譲渡会の様子

担当：環境生活部県民くらしの安全課食の安全安心担当　電話：019-629-5323

6.「子どもたちの夢を応援！県立学校の環境充実」に活用

令和元年度受入実績　15件　1,570,738

岩手の未来を担う子どもたちが自身の夢や希望に向かって勉強や部活動に取り組むため、県立学校の生徒が授業で使用する設備や部活動で使用する備品の整備など、教育環境の充実を図る事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○産業教育設備整備費
　高等学校の産業教育に必要な実験実習設備等を整備し、農業・工業・商業・水産業その他の産業の即戦力となる人材育成につながっています。

授業風景

○部活動設備整備費
　部活動に必要な設備を整備し、スポーツ・文化・科学・芸術等の楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を自ら創造する活動の場になっています。

活動風景

担当：教育企画室施設整備管財担当　電話：019-629-6152

7.「岩手県立大学未来創造応援プロジェクト」に活用

令和元年度受入実績　4件　112,000円

岩手県立大学では、地域に根差した高等教育機関としての役割を充実・強化し、地域に貢献する取組を実践しており、各市町村における地方創生の取組をはじめ地域の課題解決や産業振興に向けた取組など、岩手県立大学が県民のシンクタンクとして地域の未来創造に貢献する取組を推進するための事業に活用しました。

〇市町村地方創生支援事業
市町村の地方創生を支援するため、市町村に対する助言・指導及び市町村職員の課題解決能力の向上を図る事業を岩手県立大学に委託して実施しました。市町村の地方創生の取組につながっています。

〇岩手県立大学雇用創出研究推進事業
岩手県立大学に委託して、岩手県立大学が有するＩＣＴ等に関する知見等を活用した共同研究を実施しました。企業等での実用化に向けた研究開発の加速や企業間や産学官の連携の促進により、地域産業の活性化や、雇用の創出につながっています。

地方創生情報交換会を開催し、市町村職員等に支援内容や県内の取組等を説明している様子

担当：ふるさと振興部学事振興課学事企画担当　電話：019-629-5045

8.「グローバル人材の育成」に活用

令和元年度受入実績　２件　100,000円

高校生の海外派遣や大学生の海外留学を支援し、広い視野を持って岩手と世界をつなぐ人材や国際的視野を持って地域で活躍する人材の育成を進めるための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

〇いわてグローカル人材育成推進費
学生の国際的視野を養うため、産官学が一体となった「いわてグローカル人材育成推進協議会」で実施する学生の海外留学等を支援しました。

〇世界と岩手をつなぐ地域の国際人材育成推進事業費
地域の国際人材を育成するため、世界と岩手をつなぎ、本県の発展に貢献したいという強い意欲を持つ本県高校生の北米への海外派遣を支援しました。

〇雲南省友好交流推進事業費
中国雲南省との友好交流協定に基づき、お互いの多様な文化への理解を深めるため、相互派遣交流を支援しました。

壮行会風景

北米派遣風景

中国雲南省派遣風景

担当：ふるさと振興部国際室　電話：019-629-5765

9.「三陸鉄道の支援」に活用

令和元年度受入実績　422件　18,619,433円

三陸鉄道は、令和元年10月の台風19号の災害の影響により甚大な被害を受けましたが、令和2年3月20日に全線運行再開しました。頂いた御寄附は三陸鉄道の復旧支援や利用促進等のための事業に活用しました。

○ファン拡大事業
台風被害からの復旧に取り組む三陸鉄道の姿を全国にＰＲし、応援機運を盛り上げることを目的とした情報発信事業を実施しました。

作成したポスター

○三陸鉄道リアス線全線運行再開記念事業
台風被害から全線で運行を再開した記念の出発式や列車の運行を支援し、三陸鉄道の運行再開をＰＲしました。

出発式の様子

担当：ふるさと振興部交通政策室地域交通担当　電話：019-629-5206

10.「災害復旧等対策」に活用

令和元年度受入実績　127件　10,635,975円

東日本大震災津波や平成28年台風第10号災害・令和元年台風第19号災害からの復旧・復興に向けた取組、近年、激甚化、頻発化する豪雨などによる災害復旧等に向けた取組を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○産業再生推進費（復興局）
沿岸市町村の基幹産業である水産加工業への人材確保及び経営全般の支援や、沿岸市町村での若者・女性等の起業支援を行うなど、広く三陸地域全体の産業の振興を図る取組を実施しました。

セミナー風景

○道路維持修繕（県土整備部）
台風等により発生した倒木や流出土砂の撤去等の道路の維持修繕を実施しました。

倒木撤去　流出土砂撤去

路面清掃　側溝清掃

担当：復興局まちづくり・産業再生課　電話：019-629-6931
県土整備部道路環境課　電話：019-629-5871

11.「いわて産業人材奨学金返還支援基金」に活用

令和元年度受入実績　14件　945,000円

県内ものづくり企業等の技術力・開発力の向上等を担う産業人材を確保し、地域産業の高度化と持続的な発展を推進していくため、学生が大学などを卒業後、または既卒者がU・Iターンを希望し、県内企業に一定期間就業した場合に、奨学金の返還支援を行っており、いただいた御寄附を助成金として活用しました。

○（独法）日本学生支援機構の第一種及び第二種奨学金の貸与を受けている支援対象者に対し、貸与金額の１/２又は１/３を最大250万円まで助成しました。

○支援対象者のご負担を少しでも軽減するため、就業１年目から毎月の奨学金返還額と同額を助成しました。

担当：ものづくり自動車産業振興室　電話：019-629-5551

12.「伝統工芸産業、漆産業、アパレル産業支援」に活用

令和元年度受入実績　５件　300,000円

県産漆の生産性拡大や漆文化の魅力向上を図るため、首都圏等における販売機会の創出、人材育成について、次のような事業に活用しました。

○漆関連産業インターンシップの実施
漆関連産業の人材確保のため、大学や専門学校生を対象に漆掻きや木地職人、塗師などの仕事を体験するインターンシップを実施しました。

○漆文化の普及イベントの実施
県産漆の魅力を伝えることを目的に、漆の生産方法や製品の魅力、文化的背景の理解を深めてもらうイベントやプロモーションを実施しました。

○首都圏での漆器販売会の実施
県産漆器の販売拡大のため、首都圏での漆器の展示販売会を実施しました。

インターンシップの様子

普及イベントの様子

展示販売会の様子

担当：商工労働観光部産業経済交流課地域産業担当　電話：019-629-5537

13.「いわての世界遺産保存と活用」に活用

令和元年度受入実績　4件　140,000円

岩手県内には、「平泉」と「明治日本の産業革命遺産(橋野鉄鉱山)」の２つの世界遺産があります。これらを人類共通の宝として未来に継承していくことを目的に、世界遺産を通じた教育活動や世界遺産の保存管理の取組を推進する事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○世界遺産出前授業
　地域の歴史文化に理解と愛着を持った人材を育成し、世界遺産を人類共通の宝として未来に継承していくため、県内の児童・生徒に対し、世界遺産の価値を伝える出前授業を行いました。

授業の様子

○世界遺産PRブースの出展(KOUGEI EXPO IN IWATE)
　県内の世界遺産及び世界遺産候補の理解を深めてもらうため、世界遺産の価値等をわかりやすく伝えるパネル展示や、クイズラリーを実施しました。

ブースの様子

担当：文化スポーツ部文化振興課世界遺産担当　電話：019-629-6486

14.「海洋ごみ対策」に活用

令和元年度受入実績　11件　850,000円

近年、海洋に流出するプラスチックごみなどによる地球規模での環境汚染が懸念されていることから、ごみを海に流出させないための取組や海岸漂着物の回収・処理などの取組を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○岩手県海岸漂着物対策推進地域計画の策定
　有識者や民間団体、行政機関などからご意見をいただき、海洋ごみ対策を進めるための計画を策定しました。
○海岸漂着物の円滑な処理
　海岸に漂着したごみの回収・処理を行いました。
○海岸漂着物等の効果的な発生抑制
　海に流出するプラスチックごみを減らすため、使い捨てプラスチック利用を見直す呼びかけや、河川の清掃活動を行う団体への表彰などを行いました。
○環境学習・普及啓発
　多くの方に海洋ごみ問題を知って取り組んでいただくため、呼びかけや環境学習などを行いました。

関係団体との意見交換を通じて計画を策定

プラごみ削減の呼びかけ

啓発パンフレット

担当：環境生活部資源循環推進課資源循環担当　電話：019-629-5367

15.「海岸環境整備事業」に活用

令和元年度受入実績　2件　100,000円

東日本大震災津波や地盤沈下により砂浜が消失した根浜海岸において、平成30年度から砂浜再生事業による養浜工事を行っています。令和元年７月には工事の一部が完了し、砂浜の一般開放に向けて、いただいた御寄附を次のような事業に活用しました。

○海岸調査費
　砂浜の一般開放に向けたモニタリング等を行いました。
　令和元年７月には、根浜海岸では震災後初めてとなる海開きやイベント等が行われ、砂浜を利用する多くの方々で賑わいました。

養浜**前**の根浜海岸

養浜**後**の根浜海岸

多くの海水浴客で賑わう様子（R1.8）

トライアスロン大会の様子（R1.7）

担当：県土整備部河川課　電話：019-629-5907

16.「いわて社会貢献・復興活動支援基金」に活用

令和元年度受入実績　　10件　288,574円

復興支援活動及び地域課題解決に取り組むＮＰＯ等への支援として、ＮＰＯ等の運営基盤を強化することを目的とした事業の経費として活用しており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○事業型ＮＰＯ育成事業
　復興支援などを活動目的とするＮＰＯ等が目的達成まで安定的な運営ができるよう、認定ＮＰＯ法人制度の紹介や、資金調達や事業計画の見直しについて各種研修を行いました。

組織マネジメント研修風景

○ＮＰＯ等基盤強化事業
　岩手県内で他団体と協働して実施するＮＰＯ等の事業に対し補助金を支給したほか、さらに復興支援活動や協働の取組を推進するためＮＰＯと企業の交流会を行いました。

企業×ＮＰＯ　岩手交流会風景

担当：環境生活部若者女性協働推進室　電話：019-629-5199

17.「ＩＬＣプロジェクト」に活用

令和元年度受入実績　８件　428,243円

国際協力で建設される世界最先端の研究施設「国際リニアコライダー（ＩＬＣ）」の実現に向けて、国内外への情報発信や立地環境に関する調査研究、加速器関連産業の振興など、建設候補地として積極的な活動を展開するため、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○加速器関連産業の振興
　専門家による技術指導や技術セミナー開催等により、県内企業の技術力向上や加速器関連産業への参入の促進に取り組みました。

「ＩＬＣ技術セミナー」の開催

○国内外に向けた情報発信
　仙台市で開催されたリニアコライダー国際会議（LCWS2019）に岩手県ブースを出展し、海外研究者等に岩手県の取組をＰＲするなど、ＩＬＣの普及啓発に取り組みました。

「ＬＣＷＳ２０１９」岩手県ブース

担当：ＩＬＣ推進局事業推進課　電話：019-629-5203

18.「北上川バレープロジェクト」に活用

令和元年度受入実績　4件　150,000円

北上川流域において、自動車や半導体関連産業を中心とした産業集積が進み、新たな雇用の創出が見込まれることを生かし、働きやすく、暮らしやすい、21世紀にふさわしい新しい時代を切り拓く先行モデルとなるゾーンの創造を目指すための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○働きやすく、暮らしやすいエリアの実現に向けた取組の推進
　ＡＩやＩｏＴなど、産業分野・生活分野への第４次産業革命技術の導入等を通じた、働きやすく、暮らしやすいエリアの実現に向け、専門家による現地調査やセミナーを開催しました。

○北上川バレープロジェクトシンポジウム等の開催
　北上川バレーの魅力やポテンシャルを広く発信するシンポジウムや、企業・団体が強みを生かしながら連携することで、効果的に課題解決を図っていく方策を検討するワークショップを開催しました。

シンポジウムの様子

ワークショップの様子

担当：ふるさと振興部地域振興室地域振興担当　電話：019-629-5184

19.「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」に活用

令和元年度受入実績　1件　10,000円

三陸防災復興プロジェクト2019等を契機として生み出される効果を持続するため、三陸地域の多様な魅力を発信し国内外との交流を活発化することにより、岩手県と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展するゾーンの創造を目指すための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○三陸防災復興ゾーンプロジェクトの推進
　三陸防災復興プロジェクト2019の成果を継承し、継続した三陸振興を図るため、沿岸地域の副首長などを構成員とする「三陸振興協議会」を設立し、今後の三陸振興の在り方について議論しました。

○三陸地域の総合振興体制の核となる組織の準備
　三陸地域の核となる新たな組織の立ち上げに向け、先進地視察の実施や専門家からのヒアリングなどを行いました。

三陸振興協議会の様子

三陸振興協議会の様子

担当：ふるさと振興部県北・沿岸振興室沿岸振興担当　電話：019-629-6222

20.「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」に活用

令和元年度受入実績　１件　40,000円

県北圏域をはじめとする北いわての持つポテンシャルを最大限に発揮させる地域振興を図るとともに、人口減少と高齢化、環境問題に対応する社会づくりを一体的に推進することで、あらゆる世代がいきいきと暮らし、持続的に発展する先進的なゾーンの創造を目指すための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○北いわて未来戦略推進連絡会議の開催
　市町村と県等で構成する「北いわて未来戦略推進連絡会議」を設立し、地域課題やゾーンプロジェクトの取組状況を共有するとともに、広域連携による施策の形成・展開に必要な対応を検討しました 。

○北いわて産業・社会革新部門の設置
　令和元年４月に県と岩手県立大学との間で締結した「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」に基づき、大学内に「北いわて産業・社会革新部門」を共同で設置し、地域連携コーディネーターを配置するとともに、シンポジウムの開催や、地域資源に関する調査などを行いました。

北いわて未来戦略推進連絡会議の様子

連携協力協定式の様子

シンポジウムの様子

担当：ふるさと振興部県北・沿岸振興室県北振興担当　電話：019-629-5211

21.「三陸沿岸振興」に活用
（三陸防災復興プロジェクト2019の開催事業）

令和元年度受入実績　4件　92,155円

復興に取り組む姿を発信し、東日本大震災津波の風化を防ぐとともに、東日本大震災津波の記憶と教訓を伝え、国内外の防災力向上に貢献することを目的に、三陸地域全体を舞台とする総合的な防災復興行事「三陸防災復興プロジェクト2019」を開催し、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」
釜石市内の小中学生で構成する「かまいし絆会議」の子供達がデザイン・制作した三陸産ホタテの貝殻モザイクアートを、釜石鵜住居復興スタジアムに設置し、国内外からの復興支援に関する感謝のメッセージを発信しました。

ホタテモザイクアート設置後

○三陸防災復興シンポジウム2019（全４回）
釜石市、久慈市、大船渡市、宮古市の全４会場でそれぞれテーマを設定し、東日本大震災津波の記憶と教訓を伝え、日本国内はもとより、世界の防災力向上に貢献するためのシンポジウムを開催しました。

シンポジウム（釜石市）の様子

担当：ふるさと振興部県北・沿岸振興室沿岸振興担当　電話：019-629--6222

21.「三陸沿岸振興」に活用
（東日本大震災津波伝承館の整備事業）

令和元年度受入実績　4件　414,000円

東日本大震災津波の悲しみを二度とくり返さないために、震災の事実と教訓を世界及び次世代に伝承するための施設「東日本大震災津波伝承館」は、令和元年９月22日に陸前高田市に開館しました。いただいた御寄附は東日本大震災津波伝承館の整備事業に活用しました。

○多くの方々にご来館いただいています。
東日本大震災津波伝承館は、開館以降、多くの方々にご来館いただき、令和２年10月末時点で24万人を超える来館者の皆様をお迎えしました。

伝承館を含む施設全景

○震災の事実と教訓を伝えていきます。
東日本大震災津波伝承館は、次世代を担う児童・生徒が震災津波について正しく学び、防災意識を高める「学びの場」として、復興教育に取り組みます。

小学生に展示を解説する様子

担当：東日本大震災津波伝承館　電話：0192-47-4455

21.「三陸沿岸振興」に活用

（ラグビーワールドカップ2019を契機とした観光客受け入れ等の基盤整備に関する事業）

令和元年度受入実績　3件　231,371円

ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催では、東日本大震災津波の際に世界中から頂いた支援への感謝の思いと、復興に力強く取り組む姿を国内外に発信するとともに、観戦客の受入れ等様々な取組を実施したところであり、いただいた御寄附は、主に、次のような取組に活用しました。

〇大会公式ファンゾーンの開催

大会期間中に、全国最長となる28日間にわたり 「ファンゾーンin岩手・釜石」を開催しました。ファンゾーンでは、復興情報の発信をはじめ、各試合のパブリックビューイングやステージイベントの実施等により来場者へのおもてなしを行いました。

〇都市装飾（シティドレッシング）の実施

岩手・釜石独自で制作したのぼりや横断幕を県内各地に掲出したほか、写真撮影スポットとして、試合会場付近にラグビーボールの形状をした巨大なオブジェを設置するなど、大会の盛り上げを図りました。

大会の様子

ファンゾーンの様子

写真撮影スポット

担当：文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室総務担当　電話：019-629-6796

Ⅱ　分野別型寄附の活用状況

令和元年度受入実績　7件　467,579円

魅力あるふるさとづくりに活用

日常生活の利便性の向上により暮らしやすさを実現し、地域の魅力を高めるほか、地域コミュニティ活動への支援、公共交通の利用促進、豊かな環境の保全・形成など魅力あるまちづくりを進めるため、活力ある小集落の構築に向けた取り組み等に活用しました。

保健・医療・福祉充実に活用

医療、福祉・介護を充実していくとともに、健康と長生きのための取り組みを推進し、若者からお年寄りまで全ての人々が安心して暮らせる地域をつくるため、医師の確保を図るための取り組みや、がん対策を推進するための取り組みに活用しました。

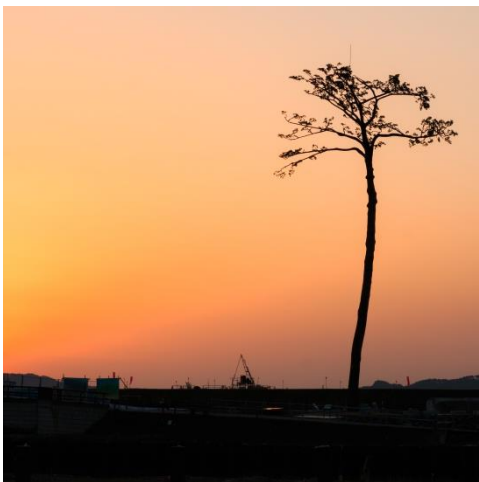
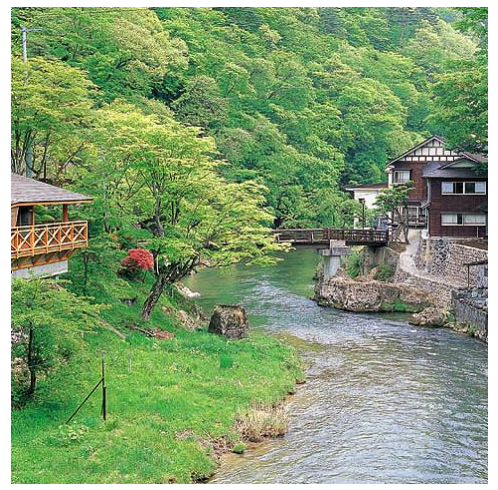
文化芸術・スポーツ振興に活用

地域の伝統文化をはじめとする文化芸術やスポーツの振興を図り、心豊かでいきいきと暮らせる地域をつくるため、地域の文化芸術活動を支援する事業や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に多くの県民が参加できるよう取り組む事業に活用しました。

若者・女性の活躍支援に活用

若者たちが躍動する地域、女性が個性と能力を十分に発揮できる社会の形成を進めるため、若者の主体的な活動やネットワークづくりの支援のほか、いわて女性活躍企業等認定制度の普及など、女性が活躍できる環境づくりを進める取り組み等に活用しました。

ふるさとの未来を担う人づくりに活用

豊かなふるさとの将来を担う人づくりの推進や教育の振興を図り、地域の活性化を実現するため、県内ものづくり産業のほか、本県の特色ある産業・文化を支える人材の確保・育成に向けた取り組み等に活用しました。

問い合わせ先/岩手県ふるさと振興部地域振興室地域振興担当
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10ー1
電話:019-629-5184 FAX:019-629-5254
岩手県ホームページ「ふるさと岩手応援寄付のお知らせ」